論述ブースト No.11

臓器移植・脳死を論じる
—— 死の定義・本人意思・家族の視点を整理する

目標：医学部入試で頻出の「臓器移植・脳死」テーマについて、死の定義をめぐる論争・本人の自律的意思・家族の権利・公正な臓器配分という4つの視点から構造的に論証できるようにする。

授業の仕掛け（直感への衝撃）

導入：「脳死は人の死ですか？」→「はい/いいえ」で即答する生徒が多い。しかし脳死の「定義」は医学的問題ではなく「どのような死を社会が認めるか」という哲学・文化・法律の問題。

核心：臓器移植・脳死の4視点：①死の定義（全脳死 vs 脳幹死） ②本人の自律的意思（ドナーカード） ③家族の権利と苦悩 ④公正な臓器配分

採点者の視点

採点者はここを見ている —— 臓器移植・脳死・死の定義で合格答案はこういう「構造」をしている

① なぜ同じ内容でも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

「正しいことを書いていても、論証の構造が見えない答案は、採点者の印象に残らない。」

臓器移植・脳死・死の定義では、*脳死判定基準の根拠*が答案の質を大きく左右します。

② 臓器移植・脳死・死の定義で採点者が見ているポイント

「脳死判定基準と本人意思・家族の視点を区別して論じた答案」が採点者評価を上げる

この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。結論を出すだけでなく、論証の構造を意識しながら取り組んでください。

③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「意見があるか」ではなく「なぜそう考えるかを構造的に説明できるか」です。この授業で習得する「論証の骨格」は、あらゆる試験形式に通用します。

📚 続きは講義でご覧いただけます

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。
大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。

清光学院 AP SEIKO 理系講座　© 清光教育総合研究所